



人は苦難を共にする経験によってお互いのアイデンティティの融合が起きやすくなるという。私たちは社会のために行動している人たちとの交流をためらうべきではない。



時は加速していきます。特に3年生はそれを実感しているのではないのでしょうか。受験が終わった人もいれば、合格発表まで終わった人もいます。これから受験に挑む人は、今は真剣に学習に向かっている時期です。1、2年生にしても各種説明会・講演会等、進路に関する行事に参加することで進路意識が確立してきたものと思います。

ボランティア活動と大学入試

総合型か学校推薦型で大学に行きたいのですが、ボランティアをした方が良いですか？

こんな質問を受けたことがあります。きっと誤解があるのでしょうか。何かを天秤にかけているのだと思います。

2015年に「高大接続改革実行プラン」が発表されてから大学入試は変わりました。AO入試は「総合型選抜」に、推薦入試は「学校推薦型選抜」に名称が変わったのはその一部でいろいろな改革が行われることとなりました。

これまで以上に探究活動が重要視されるようになったのもその一つです。高校で学んだ探究活動を大学でも活用していこうというのが「高大接続」の考え方です。みなさんが「総合的な探究の時間」で研究の仕方を学ぶのもそのためです。

さらに大学においては、その選抜方法も見直されることになりました。選抜の際に学力の三要素、すなわち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をバランス良く評価することとなったのです。

その中で社会的な活動を評価するという大学も出てきました。よりよい社会づくりに貢献できる人材を求めているのです。このようなことから、安易に「ボランティアは入試に有利だ」と考える人が出てくるのも当然の流れだったのかもしれませんが。

とはいえ、ボランティア活動というものは何かの見返りのために行われるものではありません。

「入試に有利になるからボランティアに参加する」これでは話があべこべです。これでは「相手のためというよりも自分のため」ということになってしまいます。私たちの社会はボランティア活動に積極的に参加する人間性を評価するのです。

「大学入試のためにボランティアをする」根本的に動機が間違っています。動機が間違っている場合、何をやってもどれも正しくはないのです。

それでは、ボランティア活動の意義とは何なのでしょう。われわれ教員はあなたたち生徒にボランティア活動への参加を推奨します。

それは、その活動がみなさんのアイデンティティに作用するからです。ボランティア活動それ自体が、さらにはそれに携わる人々の精神がみなさんの魂に何かを訴えるのです。高校時代は様々な活動を通して自己を確立させていく時期です。自らの価値観、目的を理解し社会に貢献していく自分を作り上げていく時期です。今経験している多くのことが、みなさんの魂に作用し、そして感染するのです。

経験によって私たちはまた一つ何かを学ぶことができます。そして、たとえ精神的に追い詰められるようなことがあったとしても、異なる視点、より大きな視点に立つとき、私たちは目の前の大きな悩みを、ほんの少しばかり小さくすることができるのかもしれませんが。

社会活動への参加は、きっとそのきっかけになるはずです。視野を広げるのです。頑張れ南高生！



進路目標達成のために3年生が頑張っています。私たち1、2年生もそろそろ本気モードで進路について取り組みませんか。今までちょっと怠けていたって人もいるかもしれませんが、嘆くよりも今から始めることが大切です。



中国の古いことわざにこういうものがあるそうです。

「木を植えるのに最良の時期は二十年前。二番目に好ましい時期は今この瞬間だ」

私たちの取り組みに、遅すぎるということはありません。



あのね、チキンちゃん。何でもかんでも不平や不満ばかり言っている人がいるんだけど、どうしてなの？

びよちゃん、それはね、不平や不満を言うのが簡単だからなんだよ。あまりに簡単だから、そういう人は不平不満を言うのが日常になってしまったんだ。残念だよ。



その人はあなたの「敵」ではないのですよ

11月には多くの大学で学校推薦型選抜の試験が行われます。本校においても、自らの能力を信じ決断した3年生が進路に対する志を持って挑みます。

1、2年生のみなさんは、昼休みや放課後にいたるところで3年生がマンツーマンで指導を受けている姿を見ることがあると思います。それは小論文試験もしくは面接試験のための指導を受けている姿なのです。

面接試験においては、自らの「想い」を自らの言葉で表現できなくてはなりません。いわゆるコミュニケーション能力を発揮しなくてはならないのです。

それではそのために私たちが心がけなくてはならないこととは何なのでしょう。

もっとも大切なことは「聞き手のために話す」ということを意識することです。面接練習をしていると、暗記したことをただひたすら「読む」人がいます。おそらく聞き手である面接指導者がその場になくても、ただただ答え続けるのでしょう。聞き手が存在しているということをまったく意識していないのです。すなわち「自分のためだけ」に話し続けているのです。これでは答えを紙に書いて提出するのと変わりありません。面接する人は人間としてのあなたを知りたいのです。どんな人であるのか、あ

りのままのあなたを知りたいのです。暗記したことを棒読みしたのであっては聞き手のニーズに応えたことにはなりません。

誰かとコミュニケーションを取りたいとき、誰もがそれがうまくいくことを願うはずですが、面接であってもそれは同じです。聞き手は話し手が戸惑うことなく話すことを願うはずですが、相手がぎこちない状況になることを望む人などいないのです。思いやりの心を持って話し手と接しているはずですが。

忘れないでください。入試においても面接を担当する人はあなたの「敵」ではないのです。それどころかスムーズなやり取りを楽しみにしている「味方」であることが多いのです。受験を終えて帰ってきた生徒に、面接について聞いてみると「優しい対応だった」と答えることがほとんどです。良いですか、あなたたち受験生はそこに味方がいるのだから、面接を恐れることなどないということです。

どういうわけか面接試験を受ける生徒は、どこから仕入れてくるのか、圧迫面接という言葉覚え、中にはそれを使いたがる人がいます。少なくとも今の時代に、入試の面接において圧迫面接などというものは存在しませんから不確かな情報に惑わされないように。



面接について最後にひとつだけ確認します

われわれ教員は面接指導の中で、特に指導後半の時期に「他の先生にも見てもらいなさい」と言うことがあります。「多くの先生方と面接することで度胸をつける」という考え方もあるようですが、もっと大切な理由があります。同じ人ばかりと面接の練習をしていると、的確な判断ができなくなることがあるのです。どういうことか。

それは、質問に対しあなたがうまく答えられなかったとしても、指導者はもう何度も練習しているため、あなたの言いたいことが分かっています。そのため、頭の中であなたの返答は無意識のうちに修正

され、あなたの説明がそれなりに伝わってしまう、ということが起こりうるのです。

初めて対話をする相手に対しても、自分の考えをしっかりと伝えることができるか。それを確かめるために少なくとも一度は他の先生と面接練習することを指導者は勧めるのです。

さあ、受験に挑む3年生のみなさん。そんなに流暢である必要はありません。あなたの「想い」そして「志」をしっかりと志望校に伝えて来てください。



ねえねえ、最近友だちと面接練習してるんだけど「どうだった？」って聞くと、みんな「良いんじゃない」って言ってくれるんだ～。すごいでしょ。

パンダくん、がんばってるね。きっと良い感じなんだと思うよ。でもね、その聞き方だと率直な意見を聞けないかもしれないよ。「どうすればもっと良くなると思いますか？」みたいな聞き方をすれば、より良いアドバイスを引き出せるかもしれないよ。

